

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第3週（1月17日～1月23日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～ 手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎 増加続く」

第3週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,726例であり、前週より2例増とほぼ横ばいであった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、手足口病の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ7.51、0.29、0.28、0.23、0.15である。

感染性胃腸炎は前週比2%増の1,479例で、南河内14.69、泉州10.65、大阪市北部10.07、北河内8.69、堺市8.21であった。

RSウイルス感染症は18%増の58例で、南河内0.88、北河内0.50、堺市0.37である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は13%減の56例で、泉州0.55、中河内0.50、大阪市東部0.43であった。

手足口病は41%減の29例で、堺市0.37、三島・南河内0.31である。

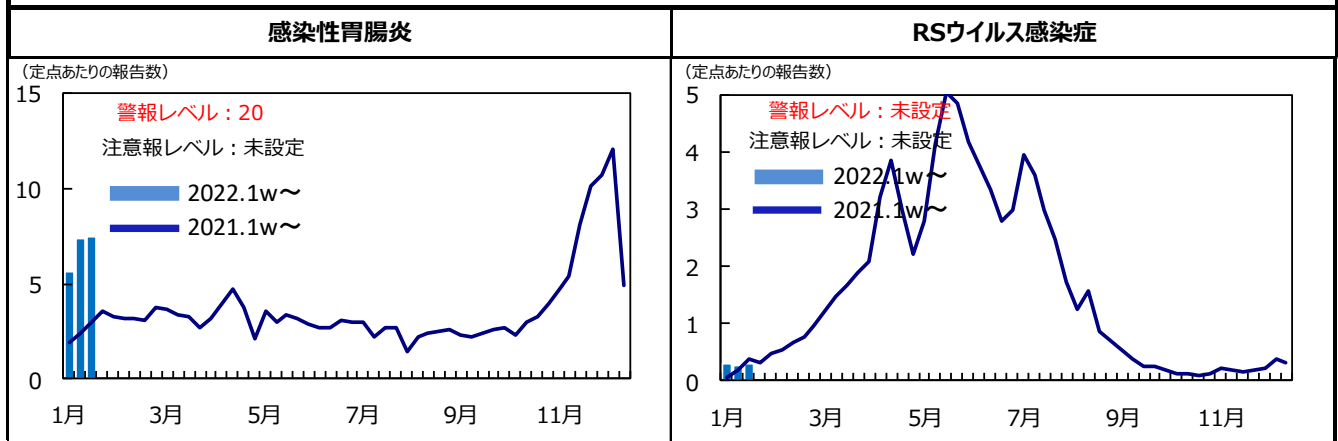


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第3週1月17日～1月23日）

第3週の順位	第2週の順位	感染症	2022年 第3週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第3週の 定点あたり 報告数	2022年第3週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	7.51	2%増	2.95	2歳_20%
2	3	RSウイルス感染症	0.29	18%増	0.39	2歳_31%
3	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.28	13%減	0.55	3歳_18%
4	5	突発性発しん	0.23	4%減	0.39	1歳_41%
5	3	手足口病	0.15	41%減	0.04	2歳_41%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.02	40%増	0.01	20歳以上(4例)_57%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第3週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

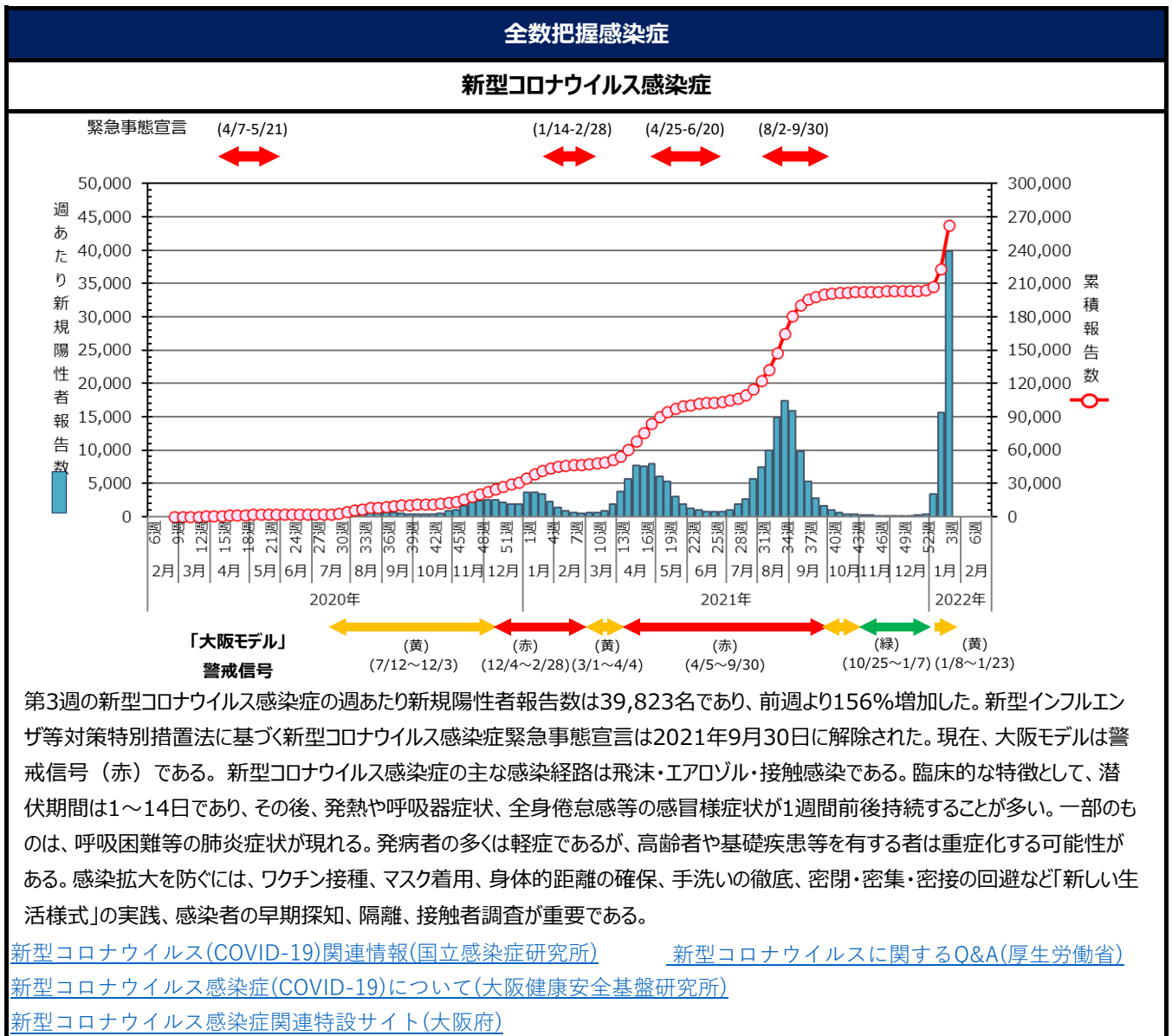


表2. 大阪府全数報告数（2022年 第3週1月17日～1月23日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1				1				5
5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	1							1	4
	水痘（入院例）	1							1	1
	梅毒	5				1			4	32
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	39,823	2020年1月以降累計 262,683							
結核 (2021年11月分)	結核 新登録患者数：81名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 30名) (府内累積報告数 1,065名、内 肺・喀痰塗抹陽性 412名)									

(2022年1月25日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。
[詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。](#)